

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	アイリー 尼崎
------	---------

公表日：2025年2月20日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		運動フロアと作業フロアに分け、有効に活用している。	引き続き、十分なスペースを確保する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法定基準以上の職員を配置している。	引き続き、適切な職員配置に努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		各フロアに絵や写真、毎日のタイムスケジュール(活動内容)を提示し、情報伝達等に配慮した環境を提供している。	子どもの特性に応じた設備整備をその都度行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日清掃の実施 ・遊具・運動機器・机の配置など活動に合わせた空間を提供できるよう調整している。	引き続き、快適に過ごせる生活空間の提供に努める。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウン(気持ちの切り替えなど)やPC・勉強に取り組む際、必要に応じて個室を使用している。	引き続き、必要に応じて個室を使用する。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		朝礼(毎日)時に業務・療育内容の立案、実施計画、振り返りを行い、定例会議(月1)を開催し、業務改善を行っている。	引き続き、朝礼とミーティングを行い PDCAを回す。
	7	保護者向け評価表により、保護者の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者評価シート・事業所自己評価シートを基に職員会議を行い業務改善、意見共有を行っている。	引き続き、職員会議を行い、職員間で共通認識を持ち適切な支援が提供できるよう努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝礼(毎日)・定例会議(月1)の際、職員の意見等を把握し、業務改善に繋げている。	引き続き、朝礼と定例会議を行っていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現状、外部評価を行い業務改善に繋げる取り組みは行っていない。	第三者による外部評価については、必要に応じて検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		社内外の研修および、資格取得の機会を設けている。	引き続き、職員の資質向上に努め、研修の機会を確保する。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページに公表している。	引き続き、ホームページに公表する。SNSへの公表を検討する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントを通じて保護者様のニーズを聞き取り、課題を分析したうえで支援計画書を作成している。	引き続き、支援と目的が明確な支援計画書の作成に努める。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援計画作成会議の際、チームで共通理解の下、意見共有と内容を検討している。	引き続き、チームで計画書作成に努める。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員間での連携を密に、支援計画書や日々の療育タイムスケジュールを軸に支援を実施している。	引き続き、計画に沿った支援を提供する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントシートや日誌等に日々の行動観察を記録し、現状の評価と課題を分析している。	引き続き、記録・分析・評価に努める。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		子どもの成長過程や特性に応じた適切な項目と具体的な支援内容を設定している。	引き続き、具体的かつ明確な支援内容の作成に努める。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		朝礼やミーティングで活動プログラムの立案を図っている。	引き続き、チームで活動プログラムの立案に努める。

関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの趣向や特性に応じた活動プログラムを組み、季節を感じられる活動を行うなど、固定化しないよう、工夫している。	引き続き、活動プログラムが固定化しないよう、チームで協議する。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる支援の内容や役割分担について確認し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動を取り入れた計画書の作成と支援を行っている。	引き続き、個別・集団活動を取り入れた計画書の作成と支援に努める。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼時(毎日)にその日の療育プログラムや役割分担について協議し、内容や役割の確認を徹底している。	引き続き、朝礼時に協議し内容や役割の確認を徹底する。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後と翌日の朝礼時に支援の振り返り等、情報共有を徹底している。SNSも活用している。	引き続き、職員間での情報共有を密に行う。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日誌・連絡帳等の作成と保管を行い、支援の検証・改善に努めている。	引き続き、正確な支援の記録と検証、改善に努める。	
	23	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		児童の発達段階や保護者様の意向に応じて計画の見直しを行っている。	保護者様の想いや意見、児童の成長に応じて見直しを行う。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		支援会議に参加し、保護者様や関係機関と情報共有を行っている。	引き続き、支援会議に参加する。	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校や相談支援員と連携し、支援を行う体制を整えている。	引き続き、保護者様や相談支援員を通じて情報提供を行う。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		未就学児へ進学前から相談支援員と連携を図り、事業所見学・体験含め、支援方針等を伝えている。	必要に応じて保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等と情報共有を行う。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		支援会議に参画し、学校と情報共有含め、相互理解を図り連携に努めている。	引き続き、情報共有と相互理解に努める。	
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	○	現状、児童発達支援センターと連携はしていない。	児童発達支援センターとの連携を検討する。	
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域交流型のイベントを実施し、地域の子どもと関わる機会を設けている。	引き続き、地域交流型イベントを実施する。	
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		常日頃から送迎時や連絡ツールを用いて共通理解の徹底に努めている。	引き続き、子どもの状況や課題について保護者様と共有理解が持てるよう、連携に努める。	
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	○	ご家族が参加できる研修等は行っていない。主に対談の際、意見交換等を行っている。	家族支援に繋がる研修等の開催を検討する。	
	保 護 者 へ の 説 明 等	32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や対談の際に丁寧な対応に努めている。	引き続き、丁寧な対応に努める。
		33	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリング、面談時に保護者様、本人の意向を確認し、計画書を作成している。	引き続き、本人とご家族の意思を尊重した計画作成に努める。
		34	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援計画書作成後、説明を行い同意を得ている。	引き続き、丁寧な説明に努める。
		35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者様の気持ちに寄り添い、適切な対応に努めている。	引き続き、適切な対応に努める。
		36	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		夏祭りなど、ご家族参加型のイベントを開催している。	引き続き、イベント活動を通じて交流の機会を設ける。
		37	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		迅速かつ適切な対応がとれるよう、相談や苦情に対する体制は整えている。	引き続き、迅速かつ適切な対応がとれるよう努める。

	38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		SNSを活用し、保護者様に毎日の情報を伝えている。	引き続き、SNSを活用していく。
	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報書類は鍵付き書庫で保管し、契約時に個人情報使用同意書を必ず提出していただいている。	引き続き、個人情報の守秘に努める。
	40	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		支援室に大きくタイムスケジュールや絵カードを使用し、情報が伝わりやすい環境を提供している。信頼関係を築けるよう、気持ちに寄り添い1人1人に合った意思の疎通を行っている。	引き続き、意思の疎通を図り、本人・保護者様に情報が伝わりやすい環境を整える。
	41	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域交流型のイベントを実施し、地域の方々と交流する機会を設けている。	引き続き、地域交流型のイベントを実施し、地域の方々と交流する機会を設ける。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		対応マニュアルは職員間での共有はできているが保護者様への周知が徹底できていない。	保護者様への周知を徹底できるよう、SNSで掲載する。
	43	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、毎年2回避難訓練等を行っている。	定期的にBCPの確認と訓練等を行う。
	44	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時に保護者様から詳細を聞き取り適切な対応に努めている。	引き続き、丁寧なヒアリングに努める。
	45	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時に保護者様から詳細を聞き取り適切な対応に努めている。	引き続き、適切な対応に努める。
	46	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、計画通りに研修、訓練を行っている。	定期的に安全計画の見直しを行い、安全管理に努める。
	47	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に安全計画に基づく取り組み内容について説明を行っている。	現状、定期的に説明ができていないので周知に努める。HPへの公表を検討する。
	48	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		その都度、ヒヤリハット・事故報告書の共有と会議の際、再発防止に向けた方策を講じている。	引き続き、ヒヤリハット・事故報告書の共有と再発防止に努める。
	49	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		適切な対応がとれるよう、研修時に対応方法の徹底と朝礼時に意見共有を行っている。	職員定例会議の際、職員研修の時間を設けている。
	50	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		現在該当する児童の利用がないため、放課後等デイサービス計画への記載はしていない。事例が発生した際は児童・職員の安全確保のため声掛け、視覚指示と手や頭を抑える対応をとり(拘束が必要と事業所内で判断した場合)、保護者には詳細説明と身体拘束に関する同意書をもらう。	該当する児童の利用が開始した時点で、計画書に記載し、保護者や関係機関と連携を図り慎重に対応していく。